

第 24 期物理学委員会（第 16 回）議事録

2019 年 12 月 27 日（金曜日）10:00-12:30

日本学術会議 会議室 5-C(1)(2)

出席者：梶田隆章(委員長)、松尾由賀利(副委員長)、野尻美保子(幹事)、山崎典子(幹事)、浅井祥仁(skype)、伊藤公孝、伊藤公平、延與佳子(skype)、岡眞、川上則雄、川村光、河野公俊(skype)、駒宮幸男、櫻井博儀、笹尾真実子、須藤靖、瀧川仁、田島節子、田村裕和、深川美里(skype)、観山正見、森初果

欠席者：相原博昭、五神真、林正彦、村上洋一、山田亨、山内正則

1. 前回議事録確認（資料 1）

第 14-15 回の議事録を確認した。

2. 次期会員、連携会員の改選にむけた情報共有

事務局より、推薦依頼を発出したこととその内容等について説明があった。継続可能な方の意思の確認、学協会にも情報提供を求めるなども平行して行われている。選考委員会の下に、部会ごとの分科会が設置されるが、分野別委員会の委員長、副委員長には役職指定で入って頂く予定である。2 月に候補者名簿を取りまとめ後、5 月までに推薦リストを決める。

それを受け、分科会ごとの状況を報告した。ジェンダーバランスについて、留意してほしいとのコメントがあった。

3. 第 3 部会、幹事会報告（梶田委員長）

資料 2-1~4 に基づき説明があった。学術ジャーナル問題については、分科会で議論されており、提言を準備しているということ。協力学術団体規定の見直しについては、現状で大きな問題が起きているわけではないが、研究者の定義、論文誌出版の主体、規模感などが分野によって異なるため、簡単ではないというコメントもあった。

委員会への旅費、手当での割当と消化状況について、減額支給が無いなど、使いにくいルールであることは皆さんご承知の通り（委員会終了後、委員手当については端数がでないように調整する、という通知が幹事会よりあった）。全体をみると最後に残額がでる例も多いため、必要な会議を設定し、first come/first serve を原則として着実に執行していく、という状況を共有した。

代表者派遣について、IUPAP 分科会から藤澤委員が C16 委員会の vice chair に選出の見込みが高いことから、推薦したいということで、手続の準備をしてもらうことになった。

4. 分科会報告

4.1 天文・宇宙物理学分科会（山崎委員）：資料 3-1 に基づきキャリアパス問題へ

の取り組み、軍事的安全保障研究へのフォローアップについて報告があった。学会会議全体でのフォローアップ状況について質問があり、科学者委員会の下に分科会が設置されていることを確認した。

4.2 IAU 分科会(山崎委員)：資料 3-2 に基づきシンポジウム開催状況等について報告があった。

4.3 素粒子・原子核分科会（田村委員）：2/19 のシンポジウムについて、記録として残すことを考えていること、2018 年 12 月の基礎科学シンポジウムを契機として書籍「基礎科学で未来をつくる」が出版されたことの報告があった。

4.4 物性物理学・一般物理分科会（川村委員）：提言の準備状況等について説明があった。学術体制分科会から第 6 期科学技術基本計画にむけた提言ができるなど、問題意識を共有する議論が全体で進んでいるために、物一分科会から分野に特化したものをだすことに躊躇があり、今期は見送る方向で考えている。議論の中身をインフォーマルな内部文書で残したい。

4.5 物理教育研究分科会（笹尾委員）：資料 3-2 に基づきシンポジウムについて報告があった。

4.6 IUPAP 分科会(野尻委員)：IUPAP 母体から委員の推薦を求められるが、ジェンダーバランスの観点から、推薦者とは別の方が選択される例もでている。

5. その他委員会報告

5.1 日本の展望 2020 検討委員会（野尻委員）：具体的な内容の執筆をする段階にあり、皆さんにもご協力をいただきたい。

5.2 研究計画・研究資金検討分科会（山崎委員）：マスタープラン 2020 は、選定は完了し、提言として準備中である。今回は提言発出まで内定連絡のようなものは行われないので、公表を待っていただきたい。

6. その他

6.1 物理教育研究分科会からの提言について、笹尾委員より資料 3-3 に基づき説明があった。ジェンダー問題について、具体的なエビデンス・対応がないため言及をしていないということに対し、野尻委員より問題として認識していることを示すことも重要なので、是非取り入れてほしいというコメントがあった。

物理学委員会としては、このコメントに対し分科会が対応後、田島委員、田村委員に査読をお願いし、必要な修正を委員長が確認後、第3部に提言案として提出することを承認した。

6.2 素粒子・原子核分科会より、資料3-3に基づき、記録案の説明があった。2/19のシンポジウムで示されたプレゼンテーションにまとめを加えたもので、分野の現状と将来計画のまとめとして残す意図ということ。分科会での審議経過や調査資料などをまとめたもの、としての「記録」に相応しいかという点で議論があり、少なくともこのままの内容では、物理学委員会としては承認しないこととし、素粒子・原子核分科会に検討をお願いすることにした。

6.3 7月にご逝去された伊藤早苗先生に対し、委員長よりこれまでの学術会議におけるご貢献他に対する感謝とともに弔意が述べられ、一同で黙祷した。

以上